

## 4. 別添資料

### (4. 生物生産学部)

1.学部教育に関する広島大学本部の中期目標と生物生産学部 の中期目標との対比	..... 2
2.教員コース組織	..... 4
3.生物生産学部の施設	..... 5
4.支援職員人員	..... 7
5.HiPROSPECTS®点検・評価・改善フローチャート	..... 8
6.教員活動実績調査票	..... 9
7.本学部で実施したFDの内容	..... 11
8.アドミッション・ポリシー	..... 12
9.AO入試	..... 12
10.カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)	..... 13
11.教育プログラム	..... 14
12.主専攻プログラム	..... 15
13.主専攻プログラム到達目標	..... 16
14.プログラムをまたがる相互受講システム	..... 18
15.中国四国地区公立大学農学系学部単位互換制度による 連携フィールド演習	..... 19
16.研究者養成特別コースプログラム について	..... 20
17.研究者養成特別コースのカリキュラム	..... 21
18.COC地(知)の拠点整備事業	..... 22
19.留学プログラム	..... 23
20.短期交換留学プログラムで開設している英語による授業科目	..... 24
21.授業形態の組合わせと学習指導方法の例	..... 25
22.教育プログラムの中での実験・実習の体系図	..... 26
23.平成25年度新入生・編入生学部ガイダンス等日程	..... 27
24.ディプロマ・ポリシー(学位授与方針,プログラムの到達目標)	..... 28
25.シラバスの活用例	..... 30
26.評価の方法	..... 32
27.学士課程における成績評価指針について	..... 33
28.卒業認定基準(教養教育)	..... 34
29.卒業認定基準(専門基礎科目)	..... 35
30.卒業認定基準(専門科目)	..... 36
31.教育関係外部資金の獲得状況	..... 37
32.学部教育に関するアンケート	..... 38
33.学部卒業生へのアンケート	..... 39
34.学部卒業生の進路	..... 40
35.実施した関係企業アンケートの内容	..... 42

別添資料 1 学部教育に関する広島大学本部の中期目標と生物生産学部の  
中期目標との対比 (出典：研究科作成)

広島大学中期目標	生物生産学部中期目標
<p><b>Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b></p> <p><b>1 教育に関する目標</b> 豊かな人間性を培う教育」を理念に掲げ、教育目的と卒業生像・修了生像を明確にし、到達目標型教育による教育の質的向上を図る。</p> <p><b>(1) 教育の成果に関する目標</b> <b>(学士課程)</b></p> <p>① 社会で活動し大学で学習する上で基本となる、自ら考え、判断し、表現する基本的能力を育成する。</p> <p>② 学際的・総合的に考える能力を養い、広い視野から物事を俯瞰できる能力を育成する。</p> <p>③ 多様な学問分野の基礎的・入門的知識や方法論を修得させ、知的好奇心を喚起させるとともに、多様な文化や価値観について理解させ、豊かな人間性を涵養する。</p> <p>④ それぞれの分野における専門知識・技術を習得させる。</p> <p>⑤ 外国語による高度なコミュニケーション能力を育成する。</p> <p><b>(2) 教育内容等に関する目標</b> <b>(学士課程)</b></p> <p>① 入学希望者の進路意識や学力構造の多様化に対応した入学者選抜方法や入学制度を構築する。</p> <p>② 明確な教育目標を設定し、それを実現するための教育プログラムを整備して、教育内容の充実、教育方法の改善に努めるとともに、教育目標への到達度を測定する確かな教育評価システムを構築する。</p> <p><b>(3) 教育の実施体制等に関する目標</b></p> <p>① 最前線の研究成果を基盤として、学生の知的・専門的能力を発展させ、倫理的・文化的資質を最大限に高める教育を行う体制を整えるとともに、学問の高度化・複合化と社会的ニーズの変化に対応したカリキュラムの整備を行う。</p> <p>② 国際的に活躍できる人材の育成のために、外国語による高度なコミュニケーション能力を高める教育体制を整える。</p> <p>③ 学士課程においては、多様な学習ニーズに対応し、主体的・自主的な学習態度を育成する教育体制を構築する。</p> <p>④ スポーツや各種芸術文化・ボランティア等の自主的な課外活動を学士課程教育の一環として捉え、積極的に支援する体制を確立する。</p> <p><b>3 その他の目標</b> 「地域社会・国際社会との共存」を理念に掲げ、社会貢献を教育と研究に次ぐ第三の柱として重視し、社会連携活動、国際交流活動を積極的に推進する。</p> <p><b>(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標</b></p>	<p><b>Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</b></p> <p><b>1 教育に関する目標</b> 豊かな人間性を培い、人間の生産活動と自然環境との調和的共存を図ることができる教養・基礎学力・応用展開能力を身につけた人材を養成する。</p> <p><b>(1) 教育の成果に関する目標</b> <b>(学士課程)</b></p> <p>① 生物及び生物圏に関する科学的知識を基礎として、環境との調和のもとに食料生産と生物資源の有効利用の分野で社会に貢献できる広い視野と能力を育成する。</p> <p><b>(2) 教育内容等に関する目標</b> <b>(学士課程)</b></p> <p>① 学生の多様化に対応した選抜方法を導入し、各選抜方法のアドミッション・ポリシーを明確にする。</p> <p>② 教育目的と卒業生像を明確にした教育到達目標を達成するための授業内容を提供する。</p> <p>③ 練習船、食品製造実験実習工場等の附属施設を活用した教育内容の充実を図る。</p> <p>④ 成績評価の適正化を図る。</p> <p><b>(3) 教育の実施体制等に関する目標</b> <b>(学士課程・大学院課程共通)</b></p> <p>① 自学自習環境を整備・充実し、学習活動の日常化を図る。</p> <p>② 教育活動の評価を実施する効率的な評価体制を構築するとともに、個々の教員の教育活動を適切に評価する尺度及び評価システムを構築する。</p> <p>③ 高等教育機関の職員としての意識改革と資質向上を図るため、教授法、評価法、教材開発、相談活動等に関する研修(FD)を継続的・組織的に実施する研修体制を整える。</p> <p><b>(学士課程)</b></p> <p>④ 教育目的と卒業生像を明確にした教育到達目標を達成するために、全学的な教育プログラムの実施に必要な教育体制を整える。</p> <p>⑤ 対話型の少人数教育を徹底する。</p> <p>⑥ フィールド教育を充実させる。</p> <p><b>3 その他の目標</b> 研究科としての社会連携活動、国際交流活動を推進する。</p> <p><b>(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標</b> <b>(学士課程)</b></p>

<ul style="list-style-type: none"><li>① 大学の有する知的・人的・物的資源を積極的に開放・活用し，未来社会の創造に貢献する。</li><li>② 産学官関連事業及び地域貢献事業を展開し，社会の多様なニーズに的確に対応する。</li><li>③ 教職員・学生の国際的な場での活動を促進するとともに，外国人に対する門戸を広げ，国際的な交流・連携・協力体制を整備する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>① 社会人の受け入れ，高校生への授業開放など正課教育開放事業を推進する。</li><li>② 学内施設を広く一般に公開し，地域の生涯学習活動を支援する。</li><li>③ 学部附属施設の利用成果を一般社会に還元し，地域の社会生活に貢献する。</li></ul>
--	---

別添資料2 教員コース組織 (出典：研究科作成)

生物圏科学研究科 (生物生産学部) 教員人員配分・現員表 (25.4.1 現在)							
所 属	学部での 所属コース名	教 育 科 目	教 授	准教授	講 師	助 教	
			現 員	現 員	現 員	現 員	現員
生 物 圏 研 究 科 所 属 教 員	生 物 圏 環 境 学 コー ス	海洋生態系評価 論	1	2			3
		水域循環制御論	1	1			2
		陸域循環制御論	1	1		1	3
		植物栄養生理学	1		1		2
		植物環境分析学		1			1
		食料生産管理学	1	1			2
		食料市場学	1	1			2
		計	6	7	1	1	15
	水 産 生 物 科 学 コー ス	水圏資源生物学	1	1			2
		水族生態学	2	1			3
		水産増殖学	1	1			2
		水族生理学	1	1			2
		水族病理学	1	1			2
		水族生化学	1	1			2
		海域生物圏部門	1	1		1	3
	計	8	7	0	1	16	
	動 物 生 産 科 学 コー ス	家畜育種遺伝学	1	1			2
		家畜生殖学	1	1			2
		家畜飼養学	1	1		1	3
		家畜管理学	1	1			2
		家畜生体機構学	1	1			2
		陸域生物圏部門	1	1		1	3
	計	6	6	0	2	14	
	食 品 科 学 コ ー ス	海洋生物資源化学	1	1		1	3
		動物資源化学	1	1			2
		食品物理学	1		1		2
		食品工学	1	1			1
		食品衛生学	2			1	3
		分子栄養学	1	1			2
	計	7	4	1	2	14	
	分 子 細 胞 機 能 学 コ ー ス	生態機能物質化学	1	1			2
		生体分子機能学	1	1			2
		微生物機能学	2	1			3
酵素化学		2		1		2	
免疫生物学		2				2	
計	7	3	1	0	11		
合 計 (配分数には全学調整分 を除く)			34	27	3	6	70
生 物 生 産 学 部 所 属 教 員		附属練習船豊潮丸		1		1	2
		計	0	1	0	1	2
合 計			34	28	3	7	72

別添資料 3 生物生産学部の施設 (出典：生物生産学部学生便覧及び研究科作成)

学部施設	恒温実験水槽棟
	屋外実験水槽
	家畜環境制御実験棟
	家禽・家畜舎
	精密実験圃場
	温室・ガラス室・網室
	食品製造実験実習棟
	ラジオアイソトープ実験棟
	工作機械実習棟
瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター	西条ステーション (農場)
	竹原ステーション (水産実験所)
学部附属練習船	豊潮丸

施設・設備の整備状況

1. 瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター

センターは陸域生物圏部門 (農場)、動植物精密実験部門 (家畜環境制御実験棟・精密実験圃場)、海域生物圏部門 (水産実験所)、及び食資源機能開発部門 (食品製造実験実習工場) の4部門で構成されており、生物圏科学研究科と生物生産学部のフィールドワークを重視した現場対応型、問題解決型の実験実習ならびに関連研究に活用されている。

(1) 農場

酪農機能に重点を置いた飼養・試験施設を整備し、また肉牛、綿羊、ヤギの飼育施設も備えている。乳牛関連施設のうち「搾乳ロボット」と「乳成分分析装置」は特筆すべき設備で教育研究に活用されている。

表 1. 農場の家畜飼養頭数 (平成 26 年度 6 月現在)

品種	乳牛		肉牛		綿羊		ヤギ	
区分	搾乳牛	育成牛	繁殖牛	育成牛	成畜	子畜	成畜	子畜
頭数	33	3	8	20	12	7	9	19



(2) 家畜環境制御実験棟・精密実験圃場

教育と研究に用いるニワトリとウズラの家禽類、研究用のヤギと綿羊を飼養する家禽舎・家畜舎を整備し、また環境温度を調節できる環境制御室も備えている。精密実験圃場では、屋外の圃場、ガラス室と網室を備えた施設を整備している。



(3) 食品製造実習工場

乳製品、肉製品、水産缶詰製造の実験実習設備のほかに、原料や加工品の成分分析に用いる研究用精密分析機器を備えている。



(4) 水産実験所

沿岸域のフィールド教育・研究に用いる「小型調査船舶カラヌス丸」、海域生物の飼育・増殖実験を行うことができる「屋外飼育実験棟」、「増殖実験飼育棟」、「精密実験飼育棟」を施設として整備している。



2. 練習船「豊潮丸（とよしおまる）」

総トン数 256 トン，乗船定員 32 名で，生物系設備・装置，海洋環境系設備・装置，気象環境系設備・装置，基礎資料等設備・装置，ウインチ装置等を備えており，国内外の海域での乗船実習や海洋生物学・水圏環境学などの学生実習・演習等や海洋生物資源研究に活用されている。附属練習船基地では，採集試料やデータの一時的な分析・処理を行う設備も整備している。



3. 教育関係共同利用拠点

西条ステーション（農場），練習船豊潮丸，竹原ステーション（水産実験所）の3施設が，他大学の学生教育に活用する教育関係共同利用拠点に認定されている。

(1) 農場（西条ステーション）

拠点名：食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点

認定期間：平成 22 年 6 月 10 日～平成 27 年 3 月 31 日

（再認定されて平成 27 年度から 31 年度も継続する）

(2) 水産実験所（竹原ステーション）

拠点名：瀬戸内海における里海学フィールド教育拠点

認定期間：平成 24 年 7 月 31 日～平成 29 年 3 月 31 日

(3) 練習船豊潮丸

拠点名：瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点

認定期間：平成 24 年 7 月 31 日～平成 29 年 3 月 31 日

4. 共通機器

DNA シーケンサー，アミノ酸分析装置，質量分析計，電子顕微鏡など，生物圏科学の多様な研究で用いる約 80 台の高度な実験用機器を共通機器として集約管理している。

5. 情報関連設備

情報処理教育室にコンピューター39台を整備し，専門的な講義や演習に用いているほか，学生が自由に利用できるようにして自習等に活用している。また，すべての講義室にマルチメディア設備を整備し（2 講義室），講義やセミナー等に活用しているほか，山口大学との双方向授業ができるテレビシステムも整備している。

6. その他の施設・設備

水生動物の生理・病理・行動生態等に関する研究に利用する「屋外実験水槽」，動植物・微生物の代謝や元素の動態解析に利用する「ラジオアイソトープ実験棟」を整備している。また，「遺伝子実験施設」が全学施設として整備されている。

別添資料 4 支援組織人員：(出典：研究科作成)

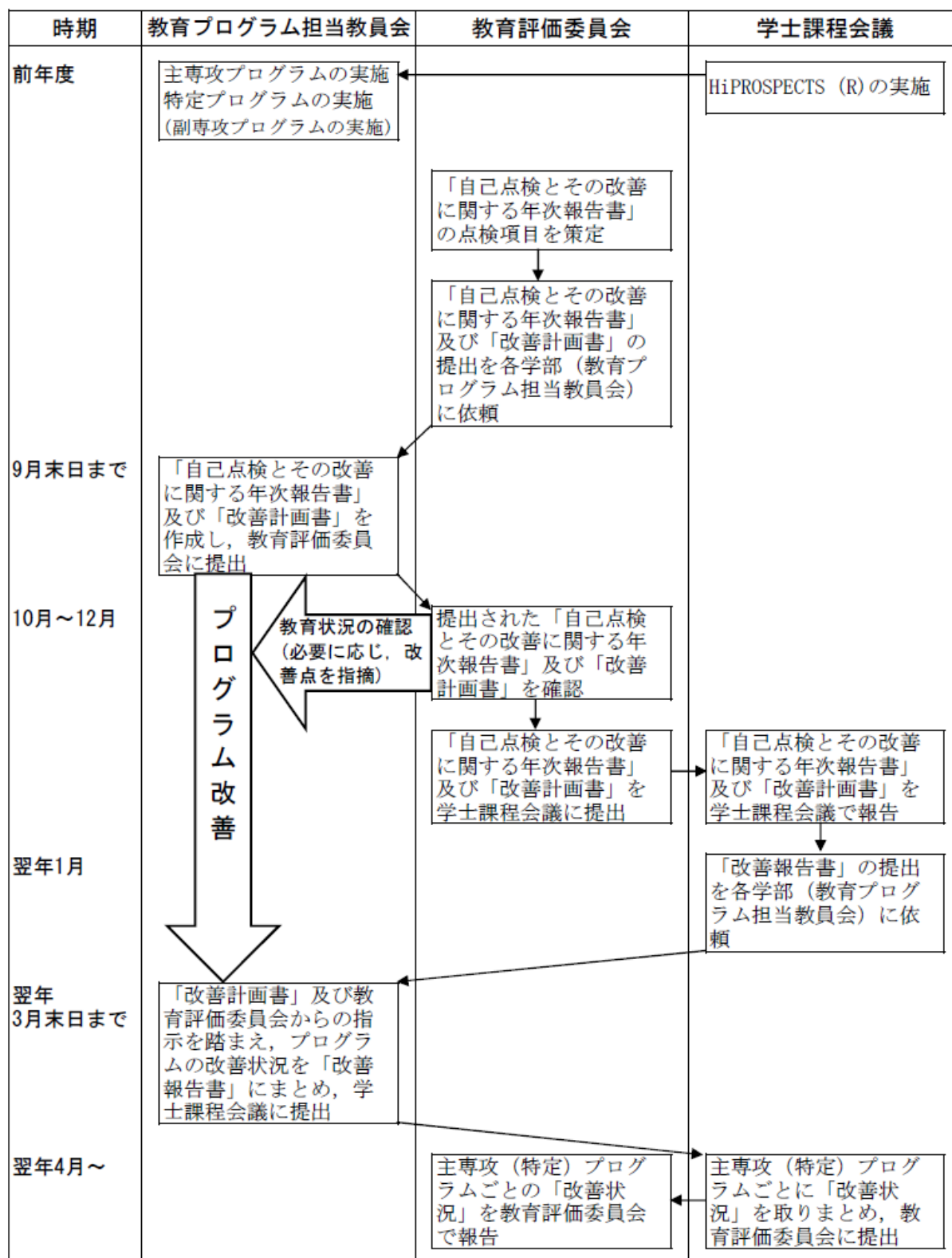
(平成 25 年度)

	常勤職員	契約 一般職員	備 考
支援室長	1 人		
総括主査	1 人		
運営支援グループ (総務・人 事・財務)	5 人	15 人	
学生支援室	5 人	3 人	
技術センター	11 人	5 人	(西条・竹原ステーション, 工作室、実 験圃場, 食品実習工場の合計)
練習船豊潮丸	10 人	1 人	(基地の非常勤職員 1 名を含む)
計	33 人	24 人	

別添資料 5 HiPROSPECTS®点検・評価・改善フローチャート

(出典：教育・国際室教育評価委員会作成)

HiPROSPECTS (R)点検・評価・改善フローチャート



【参考】

提出書類	提出期限	担当会議
自己点検とその改善に関する年次報告書	9月末日	教育評価委員会
改善計画書		
改善報告書	3月末日（翌年）	学士課程会議



別添資料 6 教員活動実績調査票 (出典：研究科作成)

2/4

		留学生受入指導数	0人
		学振特別研究員探択学生指導人数	0人 特別研究員はDCのみ
		表彰学生主指導人数	0人 学会優秀表彰を含む各種表彰
		教育プロジェクト企画運営主体(参画)件数	0件 理数、地(知)の拠点、AIMS企画運営。
		海外実習企画運営引率件数	0件
		部局企画行事運営主体(参画)件数	0件 サマースクール、オープンキャンパス、学部公開等を含む。
		特記事項	教育に関する外部資金申請書作成・獲得、教育に関する受賞、大学に申請された 部活動等への指導等、その他教育活動のうち特筆すべき事項。
III		外部資金	
		A B C 費目(該当のみ)	上記の内訳(研究題目等) 獲得金額
		1	
		2	
		3	
		4	
		5	
		6	
		7	
		8	
		9	
		10	
			0 ー合計金額(自動計算)
		特記事項	外部資金獲得のうち特筆すべき事項を記載。

2015/2/18

教授

1/4

生物圏科学研究科 平成25年度(2013年度)教員活動実績調査票(教授用シート)

※ 色セルのみに入力してください。

氏名

No	活動項目				生物圏摘要
	A	B	C	D	
1					0回 担当した全ての授業科目について実施した授業回数(試験含む)を科目ごとに記載してください。(教育拠点、理数特別コース、地(知)の拠点、AIMS等の関連講義・実習を含む。)
2					0回
3					0回
4					0回
5					0回
6					0回
7					0回
8					0回
9					0回
10					0回
11					0回
12					0回
13					0回
14					0回
15					0回
16					0回
17					0回
18					0回
19					0回
20					0回
					卒業論文指導(主指導学生のみ)人数 0人
					チューター(1年次)担当の有無 ありの場合は「1」を入力
					博士課程前期主指導学生(主指導)人数 0人
					博士課程前期主指導学生(副指導)人数 0人
					博士課程後期主指導学生(主指導)人数 0人
					博士課程後期主指導学生(副指導)人数 0人

2015/2/18

教授

IV	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">A欄はワブルダウンメニューを開き該当する項目を選択してください。</div>		社会活動	
	A	審議会等委員名等または活動件名		
	1		0件	発表など大学以外での社会貢献活動を 具体的活動件名及び種別を入力してく ださい。 A=活動種別
	2		0件	
	3		0件	
	4		0件	
	5		0件	
	6		0件	
	7		0件	
	8		0件	
	9		0件	
10		0件		
	特記事項		社会活動のうち特筆すべき事項を記載。	

2015/2/18

教授

V	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">別表会議・委員会等リス トから該当する会 議・委員会番号を入 力する</div>		大学運営	
	会議・委員会番号	全学委員会委員長・センター長	0件	別表に示す全学会議、部局委員会等リス トに参画(役職指定及び委員登録)及 び議長・委員長等の役職に就く件数をそ れぞれで重複カウントする。 ※総合科学部の委員会等も含めるがリス トにない場合は特記事項に記載。 ※全員が参加することを義務付けられ ている会議、委員会等は対象外とします (研究科教員会、学部教授会など別表 参照)。
		副部局長、部局長補佐	0件	
		全学・部局委員会委員 参画数 一左の欄に別表の会議・委員会番号を入力するとともにその件数を右欄に入 力する。二	0件	
		部局委員会委員長	0件	
		特定委員会副委員長(学務委員会、入学試験委員会、教務委員会、安全衛生 委員会)	0件	
	特記事項		別表会議・委員会等リストにない場合、 この記載欄に会議名称を記入。 会議等で特殊な任務や不可業務を与え られた場合などを記載。	
VI	その他			
	FD・大学主催の研修会等への参加(学外主催のFD含む)		0回	
	特記事項(研究を含む全ての活動を対象)			全体を通じての特筆すべき事項

2015/2/18

教授

別添資料 7 本学部で実施した FD の内容（出典：研究科作成）

平成 22 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度からの教養教育の改革について</li> <li>・Web 教育記録システムガイダンス第 1 回</li> <li>・Web 教育記録システムガイダンス第 2 回</li> <li>・e ポートフォリオを利用した学習の改善—熊本大学における e ポートフォリオの活用実践例</li> <li>・大学院生との意見交換会</li> <li>・Web 教育記録システムガイダンス第 1 回</li> <li>・男女共同参画意見交換会</li> <li>・ハラスメント研修会</li> <li>・発達障害について</li> <li>・大学院 GP 講演会・総括報告会</li> </ul>
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育記録システムガイダンス</li> <li>・学長との意見交換会</li> <li>・生物生産学部・生物圏科学研究科新人教育—教育編—</li> <li>・理数学生育成支援事業について</li> <li>・A E D 講習会</li> <li>・ハラスメント講習会</li> <li>・iPad 講習会</li> <li>・教育のレベル向上を目指す学部教育改革推進委員会の役割</li> </ul>
平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学長による教授会訪問</li> <li>・生物圏科学研究科教職員のための知財基礎セミナー</li> <li>・地域連携推進事業の学内公募説明会</li> <li>・ハラスメント防止研修会</li> <li>・e ポートフォリオシステム説明会、電子出版説明、メンタルヘルス講習会</li> </ul>
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TA/RA ガイダンス</li> <li>・ハラスメント講習会</li> <li>・学長による教授会訪問</li> <li>・外国人留学生を取り巻く環境の変化</li> <li>・研究大学強化推進事業に係る生物圏科学研究科 FD</li> <li>・ハラスメント防止研修会</li> </ul>

別添資料 8 アドミッション・ポリシー

(出典：広島大学学生募集要項及び入学者選抜に関する要項)

学部の理念と目標に賛同し、幅広い教養と高度な科学的知識・技術を身につけるための基礎学力と向上心を持ち、

次のような資質を持つ多様な人材を求めています。

- ・ 21 世紀の食料や環境の問題に興味があり、物事を総合的に考える事ができる。
- ・ 生物とその機能に関心があり、問題意識が旺盛である。
- ・ 陸や海などのフィールドでの活動が好きで、行動力がある。
- ・ 学習し、考えた事を的確に自己表現できる。

別添資料 9 AO 入試

(出典：広島大学 AO 選抜学生募集要項総合評価方式及び入学者選抜に関する要項)

A 型（専門型）：①高等学校において水産，農業及び食品製造など，本学部の教育コースのいずれかに関連する学科に在籍する者

②高等学校の総合学科において水産，農業及び食品製造など，本学部の教育コースのいずれかに関連した専門科目を 25 単位以上修得する見込みの者

B 型（研究者養成型）：

①高等学校等において理数科及び普通科の理数系のコースに在籍する者

②SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されている高等学校等に在籍し，プロジェクトあるいは課題研究に相当する科目を 2 年以上履修している又は見込みの者

C 型（一般型）：普通科、理数科又は総合学科に在籍しており，上記 A 型の総合学科に該当していない者

別添資料 10 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

（出典：生物生産学部学生便覧）

○生物圏環境学プログラム

- ・1 年次前期・後期には、主に「基盤科目」、「教養教育科目」などを通じて、平和、環境、社会問題をはじめとする幅広い教養を身につけ、基盤的学力の醸成を行います。
- ・2 年次前期には、学部共通の「専門基礎科目」を通じて、専門分野を学ぶために必要な基礎知識を養います。実験科目として、生物生産学部共通の基礎化学実験、基礎物理学実験、基礎生物学実験を履修し、基礎的な実験トレーニングを行います。
- ・2 年次後期から、主専攻プログラムに所属します。2 年次後期から 3 年次前期では、生物圏の総体的理解と陸域・水域・人間社会といった 3 つのフィールドに関する専門的教育を行います。
- ・3 年次後期からは、各研究室に配属され、卒業論文を通じて、総合的能力を養うとともに、主専攻プログラム全体を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等も養います。

○水産生物科学プログラム

- ・1 年次前・後期および 2 年次前期において、全学向けに開講されている教養教育科目（教養ゼミ・平和科目・パッケージ別科目・総合科目・外国語科目・情報科目・領域科目・健康スポーツ科目）を中心に履修します。
- ・生物生産学部で開講する科目については、1 年次には、主に基盤科目、教養教育科目等を通じて、教養、基礎学力の醸成を行います。2 年次前期には、学部共通の専門科目を通じて、学部共通に必要な基礎知識を得るとともに、フィールド科学分野の体験学習を行い、主専攻プログラムへの導入を図ります。
- ・2 年次後期から本プログラムに入った後、2 年次後期では水産生物科学の基礎から応用への展開を図ります。
- ・3 年次後期からは、各研究室に配属され、卒業論文を通じて、総合的能力を養うとともに、プログラム全体を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等も養います。

○動物生産科学プログラム

- ・1 年次前期・後期には、主に「基盤科目」、「教養教育科目」などを通じて、平和、環境、社会問題をはじめとする幅広い教養を身につけ、基盤的学力の醸成を行います。
- ・2 年次前期には、学部共通の「専門基礎科目」を通じて、専門分野を学ぶために必要な基礎知識を養います。実験科目として、生物生産学部共通の基礎化学実験、基礎物理学実験、基礎生物学実験を履修し、基礎的な実験トレーニングを行います。
- ・2 年次後期から、主専攻プログラムに所属します。2 年次後期から 3 年次前期では、動物生産に関わる分子レベルから個体レベルの生命現象と、フィールドにおける動物生産機構ならびに動物と人間社会・自然環境との関係についての知識を習得し、それらを分析・評価できる能力を養う、講義と実習を行います。
- ・3 年次後期からは、卒業論文（卒業研究）により、先端的な研究に関わることによって、動物生産科学分野での今日的課題やその背景を体系的に理解し、課題解決のための基礎的な研究手法を学ぶと共に、得られた結果の解析と考察を通じて、実践的外国語能力も含めた総合的な能力を身につける教育を各指導教員の指導のもとで行います。

### ○食品科学プログラム

- ・1年次前期・後期には、主に「基盤科目」、「教養教育科目」などを通じて、平和、環境、社会問題をはじめとする幅広い教養を身につけ、基盤的学力の醸成を行います。
- ・2年次前期には、学部共通の「専門基礎科目」を通じて、専門分野を学ぶために必要な基礎知識を養います。実験科目として、生物生産学部共通の基礎化学実験、基礎物理学実験、基礎生物学実験を履修し、基礎的な実験トレーニングを行います。
- ・2年次後期から、主専攻プログラムに所属します。2年次後期から3年次前期では、食品科学の基礎から応用への展開を図り、食品および食品素材の機能・安全性、食品の加工技術に関する専門的知識・科学技術倫理を学習しながら、それらを分析・評価する基礎的手技・手法を習得します。食品工場実習により、海洋資源・畜産資源から食品を製造する技術、および安全かつ機能性の高い食品へと変換するための実践的知識・技術を習得します。
- ・3年次後期からは、卒業論文（卒業研究）により、先端的な研究に関わります。生物資源の生産・機能解析および有効利用の分野において国際的・学際的な視野に立った取り組みのできる、創造性、国際性、応用展開能力を身に付けた食品科学技術者・研究者となるために、研究課題を通して新しい事象を発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を習得します。併せて、総合的能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等も養います。

### ○分子細胞機能学プログラム

- ・1年次前期・後期には、主に「基盤科目」、「教養教育科目」などを通じて、平和、環境、社会問題をはじめとする幅広い教養を身につけ、基盤的学力の醸成を行います。
- ・2年次前期には、学部共通の「専門基礎科目」を通じて、専門分野を学ぶために必要な基礎知識を養います。実験科目として、生物生産学部共通の基礎化学実験、基礎物理学実験、基礎生物学実験を履修し、基礎的な実験トレーニングを行います。
- ・2年次後期から、主専攻プログラムに所属します。2年次後期には分子、細胞、個体レベルに視点をおいた生物学を学び、生化学、分子生物学、有機化学、免疫生物学の基礎的知識を学びます。3年次前期には基礎から応用への展開を図り、微生物、動物、植物の3つの生物界での知見を学ぶとともに、生体情報等の知見を得て、基礎学力の補完を行いながら、分子細胞機能の開発について学びます。
- ・3年次後期からは、卒業論文（卒業研究）により、先端的な研究に関わることによって、分子細胞機能学分野での今日的課題やその背景を体系的に理解し、課題解決のための基礎的な研究手法を学ぶと共に、得られた結果の解析と考察を通じて、実践的外国語能力も含めた総合的な能力を身につける教育を各指導教員の指導のもとで行います。

### 別添資料 11 教育プログラム （出典：生物生産学部学生便覧）

プログラムには以下の3種がある。

- 主専攻プログラム  
学士号の取得を目的として、教養教育及び専門教育を全学年間に一貫的及び調和的に複合させるように編成したプログラム
- 副専攻プログラム（本人の希望と成績により履修が可能）  
興味の幅を広げ専門以外の分野を学ぶ。（成績証明書に記載される）
- 特定プログラム（本人の希望により履修が可能）  
特定のテーマに基づいて学んだり資格を取得するために学ぶ（成績証明書に記載される）。

別添資料 12 主専攻プログラム (出典：生物生産学部学生便覧)

<p>○生物圏環境学プログラム</p>
<p>生物圏における食料の生産から消費にいたる人間的営みに着目しながら、陸域の植物生産と水域の環境や低次生産，生態系の構造と機能について総合的に教育し，生物圏の食料・生物生産機能と環境保全機能の向上に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>○水産生物科学プログラム</p>
<p>海洋生物資源の有効利用を図るために，水産資源の再生産機構の解明及び新しい増養殖・放流技術の開発に関わる基礎的及び応用的教育を行い，関連する幅広い分野で，問題解決能力を持って活躍できる人材を養成する。</p>
<p>○動物生産科学プログラム</p>
<p>動物の機能と生産に関わる科学的な基礎知識と実践的技術を幅広く教育し，家畜の近代的生産や動物を応用する分野において，教養と応用展開能力を身につけて国際的な広い視野で活躍できる人材を養成する。</p>
<p>○食品科学プログラム</p>
<p>安全で高品質・高機能な食品の開発・製造及び生物資源の機能解析と有効利用に関する基礎知識と技術を総合的に教育し，広い視野から健康で豊かな食生活の創成に貢献できる人材を養成する。</p>
<p>○分子細胞機能学プログラム</p>
<p>微生物や動物，植物のもつ生物機能を遺伝子や蛋白質，有機物などの生体分子の視点から解き明かし，細胞や細胞内の小器官を生体分子の集合体として特徴づけながら，分子が織りなす細胞や生物個体の生命現象を理解し，生物資源の開発や有効利用，食料や環境等への応用へと貢献できる人材を養成する。</p>

別添資料 13 主専攻プログラム到達目標 (出典：各プログラムの詳述書)

プログラム名	到達目標	参加教育科目	
主専攻プログラム	生物圏環境学プログラム	生物圏の食料・生物生産機能と環境保全機能など、生物圏に関わる科学的な知識・解析手法と経済的評価手法を基礎として、環境と調和した食料生産や資源有効利用・環境保全を図るためにグローバルな視野で判断する能力を獲得し、さらに国際的な人材として活躍できる英語能力を修得する。	海洋生態系評価論
		水域循環制御論	
		陸域循環制御論	
		植物環境分析学	
		食料生産管理学	
		食料市場学	
	水産生物科学プログラム	水産資源の増殖を図り、利用する上で必要な資源学、生態学、生理学、増殖学、病理学及びフィールド科学の基本的な知識と研究方法を体系的に習得するとともに、水産資源の重要性と動向、水圏環境との関わりを国際的視野で把握し、水産資源に関わる課題を効果的に解決するための能力を身につけ、これらについての考えを文章や口頭で明確に発表できる能力を身につける。	水圏資源生物学
			水族生理学
			水産増殖学
			水族生態学
			水族病理学
			水族生化学
	海域生物圏部門		
	動物生産科学プログラム	1. 自然科学および社会科学についての幅広い教養と、生物学、化学、数学および物理学の基本的な知識、日本語と英語による基本的なコミュニケーション能力を身につける。2. 生物資源と食料生産、バイオテクノロジー、生物環境の保全に関する幅広い基礎的知識、および生物生産におけるフィールド科学分野の経験を有するとともに、科学者・技術者倫理を理解する。3. 動物を生産・利用する上で必要な遺伝育種、生殖、飼養、管理、生体機構、フィールド科学の基本的な知識と研究手法を体系的に修得し、その知識を実践化することができる基礎力を備える。4. 動物資源の食料生産における役割と動向、人間生活への活用、自然環境との関わり等を国際的な範囲まで洞察して、動物生産の課題を解決するための基礎的能力を身につける。5. 自分の考えを文章や口頭で論理的に発表できる基礎的能力を身につける。	家畜育種遺伝学
			家畜生殖学
			家畜飼養学
家畜管理学			
家畜生体機構学			
陸域生物圏部門			
食品科学プログラム	豊かな教養と幅広い専門知識を身につけ、科学倫理に基づき国際的・学際的視野に立って、人類が直面している最も大きな課題の一つである食料問題を解決し、健康で豊かな食生活の実現に寄与することで、地域産業のみならず世界に貢献できる食品科学技術者・研究者にふさわしい能力を持った人材。1. 生物資源を安全で品質の高い食品として応用し、生物資源を有効に利用するために、食品及び食品素材の機能性・安全性の分析・評価法に関する専門的知識を修得している。2. 生物資源由来の有用機能物質の探索と機能発現メカニズムの解明法と応用化技術、食品の加工技術や有用素材の開発等に関する専門的知識を修得している。3. 食糧生産から食品加工に至るまでの流れを、一貫したシステムとして理解できる統合的知識を修得する。4. 自分の考えを文書や口頭で論理的にプレゼンテーションできる能力を身につけている。	海洋生物資源化学	
		動物資源化学	
		食品物理学	
		食品工学	
		食品衛生学	
		分子栄養学	
分子細胞機能学プログラム	1. 微生物、動物、植物の生理機能を分子・細胞レベルで理解できる。2. 細胞における遺伝子の発現およびその調節機構を理解できる。3. 生物機能について、分子・細胞レベルから個体や生態系に至るまで階層的な見方ができる。4.	生態機能物質化学	
		生体分子機能学	
		微生物機能学	



		<p>生物および生体成分，生理活性物質，生物機能を有効に活用するための技術開発および機能解析ができる。</p> <p>5. 微生物や動植物の遺伝子導入技術の知識を修得する。</p> <p>6. 食料や環境保全など社会的な側面からも生物資源に関する問題を考え，評価できるようになる。</p>	<p>酵素化学</p>
			<p>免疫生物学</p>

別添資料 14 プログラムをまたがる相互受講システム (出典：研究科作成)

平成26年度 前期 授業時間割(1)

※履修区分(必修・選択必修・選択)は、必ず学生便覧で確認してください。

広島大学生物生産学部

		1				2				3				4								
		8:45		9:30		10:15		10:30		11:15		12:00										
年次	履修コード	必・選	授業科目	担当教員	教室	履修コード	必・選	授業科目	担当教員	教室	履修コード	必・選	授業科目	担当教員	教室	履修コード	必・選	授業科目	担当教員	教室		
月	1 共		選必 (教養教育)平和科目			L0002001	必	生物生産学入門	河合 他	全C206												
	2 共	L0019003	選必	動物生産サイエンス入門	鳥田 他	全C206		選必 (教養教育)総合科目														
	生										L1018005	選必	食料社会経済学演習	山尾, 維野	全B209							
	水	L0013025	必	外書講読	河合, Liao 他	全C206	L2018005	選必	魚類免疫学	中井	全C316											
	3 勤																					
	食																					
	分	L0013055	必	外書講読	江坂, Liao 他	全C316, C315																
	4																					
	教職		2年	自然システム(理科)教育法Ⅰ (教育学部開設科目)																		
			3年	道徳教育指導法 (教育学部開設科目)				3年	児童・青年期発達論 (教育学部開設科目)													
火	1 共							選必 (教養教育)パッケージ別科目														
	2 共	L0008003	必	分子生物学入門	水田, 江坂, 堀内	全C206	L0018003	選必	遺伝学	藤原, 海野, 西堀	全C206											
	生	L1014005	選必	生物海洋学	長沼, 小池	全C314	L5018005	選必	植物分子生物学	江坂, 藤川	全C316											
	水	L1014005	選必	生物海洋学	長沼, 小池	全C314	L2017008	選必	水産分子生物学	国吉	全C201											
	3 勤	L3018005	選必	飼料学	小椋	全C301	L3009005	必	動物環境生理学	豊後, 河上	全C301											
	食	L4018005	選必	食品機能学	鈴木	全C315	L4005005	必	食品工学	羽倉	全C205											
	分	L5011005	必	化学生態学	大村	全C316	L5018005	必	植物分子生物学	江坂, 藤川	全C316											
	4																					
	水	1					L0015001	選必	微生物学入門	沖中 他	全C206											
	2 共	L0018003	選必	動物生態学	河合, 青藤	全C206	L0022003	選必	生物物理化学	上野	全C314											
生	L1017008	選必	植物環境生理学	上田	全C201	L1018005	選必	土壌機能管理学	長岡	全C201												
水	L2003005	必	水産増殖学	長澤, 海野	全C316	L2020005	選必	魚類行動生態学	坂井	全C205												
3 勤	L3022005	選必	草地畜産学	川村	全C301	L3015005	選必	発生工学	前田, 鳥田	全C301												
食	L4019005	選必	食品物理化学	本間	全C315	L4021005	選必	食品健康科学	矢中	全C316												
分	L2003005	選必	水産増殖学	海野, 長澤	全C316	L4021005	選必	食品健康科学	矢中	全C316												
4 勤	L1017008	選必	植物環境生理学	上田	全C201																	
木	1 共		選必 (教養教育)生物学実験																			
	2 共	L0017003	選必	動物生理学	吉田	全C206	L0007003	必	生物環境学	山本, 長沼, 長尾, 藤原, 藤本	全C206											
	生	L1010005	必	水域物質循環論	山本, 三瓶	全C315	L1015005	選必	食料流通学	矢野	全C316											
	水	L1010005	選必	水域物質循環論	山本, 三瓶	全C315	L1015005	選必	食料流通学	矢野	全C316											
	3 勤	L0043035	必	外書講読	谷田, Liao 他	全C206	L3014005	選必	資源動物多様性論	西堀	全C205											
	食	L0013045	必	外書講読	本間, Liao 他	全C315																
	分	L5008005	必	動物分子生物学	清水	全C301	L5015005	必	動物細胞工学	堀内, 古澤	全C201											
	4																					
	金	1 共		選必 (教養教育)コミュニケーションⅠA																		
	2 共	L0020003	選必	植物バイオサイエンス入門	上田 他	全C206	L0021003	選必	生物統計学	渡川, 西堀, 坂井, 青藤	全C206											
生	L0013015	必	外書講読	長沼, Liao 他	全C206, C316	L2021005	選必	産生生物生態学	河合	全C316												
水	L2022005	選必	里海資源生態学	小路	全C315	L2021005	選必	産生生物生態学	河合	全C316												
3 勤	L3017005	選必	動物生産生理学	藤原, 吉村	全C301	L3012008	必	動物福祉論	谷田	全C301												
食	L4020005	選必	食品微生物学	鳥本(豊)	全C316	L5005005	選必	微生物機能学	三本木	全C314												
分	L4020005	選必	食品微生物学	鳥本(豊)	全C316	L5005005	必	微生物機能学	三本木	全C314												
共	L9001001	選必	植物育種学	丹野(山口大)	全C201																	
4																						

【凡例】

必修/選択の別  
年次欄

必修:必修科目 選必:選択必修 選選:選択科目

生:生物環境学コース 水:水産生物科学コース 勤:動物生産科学コース 食:食品科学コース 分:分子細胞機能学コース



## 別添資料 16 研究者養成特別コースプログラム について

(出典：生物生産学部学生便覧)

生物生産学部では、生命、食と環境分野の学問への意欲と情熱、大学院に進学し研究者になる強い意思を持つ学生が、より学習意欲を高め能力を研くことができるように、教育プログラムの枠を超えた「研究者養成特別コース」を設けている。この特別コースでは、広島大学で導入している「到達目標型教育プログラム (HiPROSPECTS®)」の生物生産学部5主専攻プログラムとともに特別コース用のカリキュラムを実施する。このカリキュラムは、国内外で活躍できる研究者の育成を目指したものであり、所属する学生は、特別コースのプログラム修了後には大学院への進学を前提として学ぶものである。学部に在籍する4年間に研究者になるために必要な発展的な専門的知識や実践技術をスムーズに身につけるため、1年次から体系的なプログラムを履修する。2年次後期には希望する教員へ直接配属され、通常のコースよりも1年早く専門分野の研究を開始する。具体的なカリキュラムや教員への配属方法は以降を参照すること。教員へ配属された学生は、特別コースのプログラムを履修するとともに、卒論指導教員が所属する主専攻プログラムに自動的に分属することとなる。特別コースプログラムの全課程及び主専攻プログラムを修了した学生は、卒業証書とともに特別コース修了証書を授与される。

別添資料 17 研究者養成特別コースのカリキュラム(出典：生物生産学部学生便覧)

1. 研究者養成特別コースのカリキュラム

必修科目

- 研究導入型 PBL・・・1 年次前期，1 年次後期（必修 各セメスター 2 単位 計 4 単位）  
学習者自身が中心となって行う問題解決型授業であり，教養ゼミとは別に，専任・担当教員が PBL 指導をしながら展開する。研究導入型は PBL 入門からその活用法を理解・実践することを目的とした，拡散型 PBL を実施する。
- 発展テーマ型 PBL・・・2 年次前期（必修 2 単位）  
発展テーマ型は，特定の研究テーマに基づき収束型 PBL を実施する。
- 研究エグゼクティブセミナー・・・1 年次前期・1 年次後期・2 年次前期  
（必修 各セメスター 2 単位 計 6 単位）  
生物生産学部(生物圏科学研究科)教員が各人 1 回担当し実施する（15 回/1 セメスター）。教員の研究内容及びその背景となるものを学生に紹介することで学生に興味とモチベーションの向上を図ることを目的とし，2 年次後期からの卒論指導教員配属のための情報提供も兼ねる。
- 研究基礎英語・・・2 年次前期（必修 2 単位）  
外国人教員による研究基礎英語。主専攻プログラム 3 年次生対象の外書講読とは別に実施する。主にプレゼンテーション・コミュニケーション能力を高めるための英語教育である。
- 特別コース海外実習・・・2 年次前期（必修 1 単位）  
海外の研究・教育機関を訪れることで，よりグローバルな視野を得ることを目的とする。
- 特別コース専門実験実習・・・2 年次後期・3 年次前期（必修 各セメスター 1 単位 計 2 単位）  
指導教員配属後に，卒論に必要な実験手法を教員主導の下で TA に教わりながら修得する。

選択科目

- 高大連携授業・実習 SA 実践・・・2 年次後期の教員配属後（選択 2 単位）  
高大連携講座，ひらめき☆ときめきサイエンスや SPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）などの高大連携事業において高校生に実験指導等を行い，自らのスキルアップに繋げることを目的とする。
- 選択科目となる主専攻プログラム，他の主専攻プログラム及び他学部の授業科目は，指導教員と相談の上，決定する。

その他

- 大学院授業  
4 年次に 10 単位の範囲内で履修可能。ただし，学部規定の成績を修めておくことが条件であり（学生便覧専門 32 参照），また本修得単位は，大学院入学後に手続きの上，大学院の単位として認定される（学生便覧専門 32 参照）。

2. 指導教員配属（コース分属）について

本コースの学生は，2 年次後期開始時に希望する指導教員に直接配属となり，その指導教員が所属するコースに学部で定めたコース分属方法の定員の枠外で分属される。ただし，コース分属の成績の基準を充たすことが条件となる（学生便覧専門 23 参照）。なお，特定のコース（主専攻プログラム）の教員に希望が集中した場合，教員配属を調整することもある。また，配属する学生は教員 1 人あたり 1 人を原則とする。

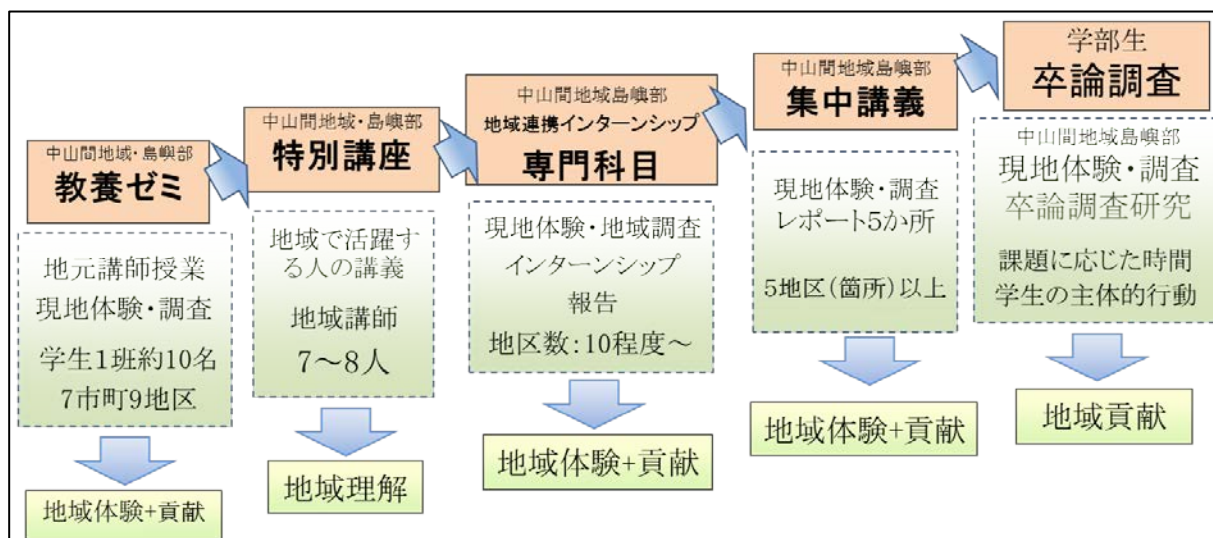
別添資料 18 COC 地（知）の拠点整備事業 （出典：広島大学 HP）

地（知）の拠点整備事業（COC 事業）は、大学等が自治体を中心に地域社会と連携して地域を志向した教育・研究・社会貢献を進め、その課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在になることを目指しています。広島大学の地（知）の拠点整備事業は、「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」をテーマにしていますが、この中で生物生産学部は、広島県の重要な地域課題になっている「中山間地域や島しょ部対策」に取り組んでいます。

広島県では瀬戸内海島しょ部や中山間地域の過疎化・高齢化が進んでいる地域（条件不利地域）での活力低下という社会課題に対して、先行してこの課題への対応を行っている先進地域でもあります。

このため広島大学では、中山間地域や島しょ部などで先進的取り組みを行っている自治体や地域の組織と強く連携し、フィールド調査を中心に農山漁村の現場で起こる様々な問題の解決と地域の活性化を目指して活動を行う、地（知）の拠点の形成を目指しています。

具体的には、この中山間地域・島しょ部等の地域課題解決に向け、教養ゼミ、フィールドワーク、インターンシップ等の充実を図るなど、地（知）の拠点整備事業における新たな地域志向カリキュラムを創設して地域連携・地域貢献・人材育成を推進しています。広島大学での学びを通して中山間地域・島しょ部等の地域課題への認識を深め、この解決に向けて自ら考え主体的に行動できる学生を養成するとともに、この地域社会・行政機関等と広島大学生物生産学部が地域課題を共有して地域活性化・地方創生の拠点形成につながる活動に協働して取り組んでいます。



別添資料 19 留学プログラム (出典：研究科作成及び広島大学 HP)

短期留学推進制度：	広島大学国際室で取り纏め
広島大学長期海外留学支援プログラム：	広島大学国際室で実施
広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)：	広島大学留学生センターで実施
エクセター大学語学研修プログラム：	広島大学外国語教育センターで実施
AIMS-HU プログラム：	広島大学国際室で取り纏め
	※(農学・食品科学分野は生物生産学部)

## 広島大学の海外研修・留学プログラム紹介

### ◆全学部・研究科(または複数研究科)対象のプログラム

## 導 入

### START プログラム

**特徴** 海外経験の少ない新生を对象に、海外の協定大学やその周辺都市を訪問し、日本と異なる文化や環境を体験する機会を提供し、国際交流や留学への関心を高めるきっかけをつくることを目的とする。広島大学教職員が引率する。参加学生は事前・事後学習への参加が必須。

- \*渡航先：ベトナム、アメリカ、インドネシア、台湾、オーストラリアなど
- \*期間：長期休暇中2週間程度
- \*対象：学部1年生
- \*募集人数：各回24名程度
- \*単位認定：2単位(教養教育科目「海外フィールドスタディ」として)
- \*費用：参加費5万円(広大基金による補助のため)
- \*募集時期：6月と12月
- \*担当窓口：国際交流グループ

<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/learning/start.html>

### 国際協力特定プログラム

**特徴** HIPROSPECTS(R)の「特定プログラム」として実施するもので、国際協力のために開発途上国の環境・平和・教育の現状の理解を目指す。プログラムの指定科目を受講後、夏期休暇中に現地研修として途上国(2013年度派遣先：フィリピンを予定)での現地研修を実施。

- \*渡航先：インドネシア、フィリピンなど
- \*期間：夏季休暇中10日間程度
- \*対象：学部3年生
- \*募集人数：原則、上限無し
- \*単位認定：2単位(プログラム全体で8単位以上)
- \*費用：13~24万円程度(2012年度実績)
- \*募集時期：4月(プログラム登録は1月)
- \*担当窓口：国際協力研究科運営支援グループ

[http://www.hiroshima-u.ac.jp/idec/specific\\_program/index.html](http://www.hiroshima-u.ac.jp/idec/specific_program/index.html)

## 語学・文化研修

### English Plus ALOHA プログラム

**特徴** 言語教育で有名なハワイ大学で、英会話を中心とした授業を受ける他、大学での学習に役立つスタディスキルやハワイの文化を学ぶ。また、ハワイ大学の学生との交流や学外の体験学習も行う。

- \*渡航先：ハワイ
- \*期間：夏季休暇中3週間
- \*対象：学部生、大学院生
- \*募集人数：14名
- \*単位認定：教養教育科目「英語圏フィールドリサーチ」として単位認定可
- \*費用：36万円(2012年度実績)
- \*募集時期：4-5月
- \*担当窓口：国際交流グループ、外国語教育研究センター

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/engfr/>

### ハンブルク大学海外研修

**特徴** 協定校である独ハンブルク大学東洋学部が行っている初級者を対象とした語学研修で、通常の授業の他に参加者2人につき、1人のドイツ人学生が組になって行う少人数学習が特徴。EU諸国の大学に共通する欧州共通単位が6単位認定される。

- \*渡航先：ドイツ
- \*期間：夏季休暇中1カ月間
- \*対象：学部生
- \*募集人数：10名程度
- \*単位認定：有
- \*費用：40万円程度
- \*募集時期：前年12月-1月
- \*担当窓口：外国語教育研究センター

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/hamburg.htm>

### エクセター大学英語研修プログラム(A) エクセターアカデミー英語研修プログラム(B)

**特徴** 英国エクセター大学内研修センター(A)、語学学校(B)での語学研修プログラム。クラスは様々な国籍の学生で構成され、滞在期間中はホームステイをする。英国では現地コーディネーターのサポート有り。

- \*渡航先：イギリス
- \*期間：夏季休暇中1ヶ月間
- \*対象：学部生、大学院生
- \*募集人数：A13名、B12名(いずれも先着順)
- \*単位認定：単位認定可(学部により異なるので所属学部学生支援Gで要確認)
- \*費用：A520,000円、B510,000円(2012年度実績)
- \*募集時期：4-5月募集説明会、6月上旬のみ
- \*担当窓口：文学研究科教授 地村彰之

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/ajimura/exeter.html>

### 夏期中国語・中国文化特別研修(台湾、北京)

**特徴** 台湾は開南大学、北京は首都師範大学で、中国語学習・文化体験・学生交流を行う。また、台湾は台北市・高雄市、北京は故宮・万里の長城を訪問して文化研修を行う。

- \*渡航先：台湾、中国(北京)
- \*研修大学：台湾は開南大学、北京は首都師範大学
- \*対象：学部生・大学院生(中国語能力、初級・中級)
- \*期間：ビザ不要。台湾は8月の14日間、北京は9月の13日間
- \*単位認定：単位認定は所属学部の学生支援グループで確認すること
- \*費用：渡航費、滞在費、研修費等
- \*募集人数：各16名
- \*募集時期：4-6月
- \*担当窓口：国際交流グループ

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kokusai/gogakukenshu/>

別添資料 20 短期交換留学プログラムで開設している英語による授業科目  
 (出典：研究科作成)

年度	前 期	後 期
H21	Intorduction to Animal Production Science (動物生産科学入門)	Introduction to Applied Molecular and Cell Biology (分子細胞機能学入門)
H22	Intorduction to Plant Production Science (植物生産学入門)	Introduction to Applied Molecular and Cell Biology (分子細胞機能学入門)
H23	Intorduction to Plant Production Science (植物生産学入門)	Current and Future States of the Research in the Fisheries Science (水産学研究の現状と未来)
H24	Intorduction to Animal Production Science (動物生産科学入門)	Current and Future States of the Research in the Fisheries Science (水産学研究の現状と未来)
H25	Intorduction to Animal Production Science) (動物生産科学入門)	Introduction to Food Science) (食品科学入門)



別添資料 21 授業形態の組合わせと学習指導方法の例

(出典：動物生産科学プログラム詳述書)

1年次		2年次		3年次			4年次	
ステップ1-1	ステップ1-2	ステップ2	ステップ3-1	ステップ3-2	ステップ3-3	ステップ4-1	ステップ4-2	
1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
<p>教養科目： ◎教養ゼミ ◎外国語：英語 ◎微積分通論 ◎一般化学 (初修化学) ◎種生物学, ○化学実験・ 生物学実験・ 物理学実験，</p> <p>専門基礎科目： ◎生物生産学入門 ◎専門基礎科目の 選択必修科目</p>	<p>教養科目： ◎語学：英語 ◎有機化学 ◎細胞科学 ○化学実験 生物学実験 物理学実験</p> <p>専門基礎科目： ◎生化学入門 ◎食料資源論 ◎生物生産学のため の物理学入門 ◎科学技術倫理学</p> <p>○専門基礎科目の 選択必修科目</p>	<p>教養科目： ◎語学：英語専門</p> <p>専門基礎科目： ◎生物環境学 ◎分子生物学入門 ◎基礎生物学実験 IとII ◎基礎化学実験◎ 基礎物理学実験 ◎動物生産サイエ ンス入門 ◎動物生理学 ◎遺伝学, ◎生物統計学</p> <p>その他の専門基礎 科目の選択必修科 目</p>	<p>専門科目： ◎動物遺伝育種 学 ◎動物生殖学 ◎動物栄養学 ◎動物生体機構 学 ◎食料生産管理 学 ◎動物遺伝育種 学実験実習 ◎動物生殖学実 験実習 ◎動物生体機構 学実験実習 ◎食品衛生学</p>	<p>専門基礎科目： ◎外書講読 専門科目： ◎動物環境生理 学 ◎動物栄養学実 験実習 ◎動物環境生理 学実験実習 ◎農場実習I ◎資源動物多様 性論 ◎発生工学 ◎飼科学 ◎動物生産生理 学 ◎動物生産学特 論(動物薬理) ◎海外畜産実習 ◎農場実習II</p>	<p>専門科目： ◎動物福祉論 ◎食品化学 ◎卒業論文 ◎家畜管理学 ◎植物栄養生理 学 ◎家畜予防衛生 学 ◎動物生産学特 論(野生動物 学) ◎動物生産 学特論(実験動 物) ◎実験動物学 ◎畜産システム 学</p>	<p>専門基礎科目： ◎公衆衛生学</p> <p>専門科目 ◎卒業論文 ◎畜産食品製造 学実験実習</p>	<p>専門科目： ◎卒業論文</p>	
<p>(オプション 科目) 教養科目： ○ 外国語： 英語以外 ○パッケージ別科目 ○スポーツ実習科目</p> <p>情報科目 一般物理学 その他の基盤科 目の選択科目</p>	<p>(オプション 科目) 教養科目： ○ 外国語：英語 以外 ○パッケージ別 科目 ○スポーツ実習 科目</p> <p>基盤科目の選択 科目</p>	<p>(オプション 科目) 教養科目： ○ 総合科目</p>						

◎は必修科目，○は選択科目

- \* **ステップ1-1 (第1学年：1セメ)**：主として前専門的な基礎知識と幅広い教養を身につけることを目的として、教養科目のコア科目とオプション科目を履修し、そして生物生産学への入門をねらいとして生物生産学入門（専門基礎科目）の履修も開始する。
- \* **ステップ1-2 (第1学年：2セメ)**：教養科目の履修を継続するとともに、専門基礎科目の履修を増やして生物生産学の知識と理解を深める。
- \* **ステップ2 (第2学年：3セメ)**：生物生産学の基礎となる知識と理解の習得を終える段階と位置付けて、主として専門基礎科目を履修し、また教養科目の語学、総合科目ならびに選択科目を履修する。
- \* **ステップ3-1 (第2学年：4セメ)**：動物生産学の専門科目のうち、主に資源動物の体の機能とその応用に関する分野の科目を履修する。
- \* **ステップ3-2 (第3学年：5セメ)**：動物生産学の専門科目のうち、主に資源動物の生産に関わる理論とフィールド実践科学分野の科目を履修する。
- \* **ステップ3-3 (第3学年：6セメ)**：動物生産学の専門科目のうち、資源動物の生産理論と生産物の食品への利用に関する科目を履修する。卒業論文のための研究を開始する。
- \* **ステップ4-1 (第4学年：7セメ)**：主として卒業論文研究を行い、動物生産学の知識、技能、実践力を統合させた総合的能力・技能を養う。生産物の食品として利用するための実践科学も履修する。
- \* **ステップ4-2 (第4学年：8セメ)**：主として卒業論文研究を行い、動物生産学の知識、技能、実践力を統合させた総合的能力・技能の習得を完成する。



別添資料 23 平成 25 年度新入生・編入生学部ガイダンス等日程(出典：研究科作成)

平成25年度 新入生・編入生 入学式、父母等懇談会、学部ガイダンス説明者・出席者一覧

月 日	時 間	行 事 内 容	場 所	説明者	新入生	編入生	出席者(○印で示す)											備 考	
							学部長	副学部長	学部長補佐	教務委員長	学務委員長	学芸委員長	学食委員長	学舎(施設)委員長	学舎(施設)委員長	1年次学コン	2年次学コン		学コン委員長
は編入生のみガイダンスをせず。																			
4月3日(水)	11:00 ~ 12:00	入学式	広島県運動公園体育館	-	●	●	○												
<b>【新入生父母等懇談会】</b>																			
4月3日(水)	13:30 ~ 13:40	学部長挨拶、出席教員の紹介	広島県運動公園体育館	学部長	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13:25集合	
	13:40 ~ 14:15	教務及び学食生活関係事項の説明 ・学部の特色及び教育について ・学食生活について ・就職及び進学について ・海外留学(STARプログラム)について		教務副学部長(教育担当)及び学食25年度学コンコーディネーター				○	○	○									
	14:15 ~ 14:25	研究費養成特選コースプログラムについて		学食推進教授															学食推進教授
	14:25 ~ 14:30	同窓会「帰郷会」の紹介		学食推進教授(同窓会幹事)															
	14:30 ~ 14:45	学食による体験説明		大学院生(2名) 学部生(2名)															1本あたり15分程度体験説明を紹介(大学院生2名→学食担当、加藤 学食担当2名→武田 学食担当、中村 学食担当)
	14:45 ~ 15:00	質疑応答		学食推進教授															
<b>【学部ガイダンス】</b>																			
4月4日(木)	9:00 ~ 9:25	学部長挨拶、教員紹介	広島県運動公園体育館	学部長	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9:05集合	
	9:30 ~ 10:00	学部ガイダンス ※ハイブロー門前教育の説明		学食推進教授(学食担当)	●	●													
	10:00 ~ 10:10	HUSA海外研修・留学プログラムガイダンス		学食推進教授	●	●													
	10:10 ~ 10:20	研究費養成特選コースプログラムガイダンス		学食推進教授	●	●													
	10:20 ~ 10:30	教務教育ガイダンス 学食推進教授シート、「リッケー」資料目録配布(学食担当)配布、学食推進教授挨拶等		学食推進教授	●	●													
	10:30 ~ 10:40	学食推進教授		学食推進教授	●	●													
	10:40 ~ 10:50	学食推進教授		学食推進教授	●	●													
	10:50 ~ 11:00	学食推進教授		学食推進教授	●	●													
	11:00 ~ 11:10	学食推進教授		学食推進教授	●	●													
	11:15 ~ 12:00	学食推進教授		学食推進教授	●	●													
12:15 ~ 13:00	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
13:00 ~ 13:10	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
13:10 ~ 13:20	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
13:20 ~ 13:30	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
13:30 ~ 13:40	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
13:40 ~ 13:50	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
13:50 ~ 14:00	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
14:00 ~ 14:10	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
14:10 ~ 14:20	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
14:20 ~ 14:30	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
14:30 ~ 14:40	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
14:40 ~ 14:50	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
14:50 ~ 15:00	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
15:00 ~ 15:10	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
15:10 ~ 15:20	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
15:20 ~ 15:30	学食推進教授	学食推進教授	●	●															
15:30 ~ 15:45	同窓会「帰郷会」の紹介	学食推進教授(同窓会幹事)																	
15:50 ~ 16:25	新入生オリエンテーションDayキックオフガイダンス	学食推進教授(学食担当)																	
16:00 ~ 16:10	3年次編入生履修指導ガイダンス	学食推進教授																	

別添資料 24 ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針, プログラムの到達目標)

(出典: 生物生産学部学生便覧)

**生物圏環境学プログラム**

食料生産や資源の循環・有効利用を目指す農林水産および環境・エネルギー等の分野に関わる企業や法人機関等における専門技術者等として活躍し、生物圏の食料・生物生産機能と環境保全機能の向上に貢献できる人材を養成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士(農学)」の称号を授与します。

- ・生物圏における生命の営みとその人間による利用を、生命現象と物質循環を通して総合的に理解できる。
- ・陸域の植物生産と、それを支える土壌の構造と機能について理解できる。
- ・水圏の生物生産と生態系の構造について理解できる。
- ・人間の食料生産の営みとその社会システムについて理解できる。
- ・生物圏における生命の営みとその人間による利用の現場への具体的アプローチの技術や方法を身につける。
- ・生物圏の具体的諸事象について、自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、意見交換できる。

**水産生物科学プログラム**

国際的視野を持った研究者・技術者となるための基礎知識、技能、態度を習得し、さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を習得した学生に「学士(農学)」の称号を授与します。

- ・水産生物、水産業、水圏環境に関する知識及び水産資源の管理と水産物の利用のために必要な知識を習得している。
- ・水産業と水圏環境の保全を両立させるために必要な理論を理解し、水産生物の諸特性について、生理学、生化学、分子生物学的手法を用いて分析・評価する能力を身につけている。
- ・水産生物の取り扱いをその特性に基づいて実施でき、有用水産資源の管理・利用について技術者・研究者倫理に基づき、多面的視野にたって考えることができる能力を身につけている。
- ・水産生物の具体的諸事象について、自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、意見交換する能力を習得している。

**動物生産科学プログラム**

品質と安全性に優れた動物性食資源の増産および安定的な供給や、自然環境と人間生活の豊かさを向上させるための動物資源の応用等の、

動物生産分野で貢献できる基礎的な能力と、これに関連する国際的な広い視野と技術者倫理を持つ人材を養成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士(農学)」の称号を授与します。

- ・動物資源の生産・利用に関わる生命現象について分子レベルから生態系に至るまで総合的に理解できる。
- ・動物生産科学分野における諸現象を包括的に解析し、判断・評価できる。
- ・動物を生産・利用する上で必要な遺伝育種、生殖、飼養、管理、生体機構、フィールド科学の基本的な知識と研究手法を体系的に習得し、その知識を実践できる。
- ・動物資源の食料生産における役割と動向、人間生活への応用、自然環境との関わりなどに関する基礎的知識を習得し、かつ国際的な範囲まで洞察して、動物生産の課題を理解することができる。

### 食品科学プログラム

安全で高品質・高機能な食品の開発・製造および生物資源の機能解析と有効利用に関する基礎知識と技術を総合的に教育し、広い視野から健康で豊かな食生活の創成に貢献できる人材を養成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を習得した学生に「学士(農学)」の称号を授与します。

- ・食品および食品素材の機能性・安全性の分析・評価法に関する専門的知識を習得できる。
- ・生物資源由来の有用機能物質を探索し、その機能発現メカニズムを解明する方法を習得できる。
- ・食品の加工技術や有用素材の応用・開発等に関する専門的知識を習得できる。
- ・食品および食品素材を扱う基本的な手技・手法とともに、科学的見地に立って食品に関する諸現象を理解できる能力を習得できる。
- ・生物資源から食品を製造する技術を習得するとともに、安全かつ機能性の高い食品へと変換するための実践的方策について考察することができる。
- ・食糧生産から食品加工に至るまでの流れを、一貫したシステムとして理解し、生物資源を安全で品質の高い食品として有効利用するための方策を考えることができる。
- 自分の考えをまとめ、文章や口頭で論理的に発表し、応答することができる。

### 分子細胞機能学プログラム

生物生産学の基盤となる生体分子・細胞・生物個体の生命現象に関する基礎的な知識と技能を修得させます。さらに思考力と創造力を発揮できる科学者としての態度を身につけた人材を養成します。

そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士(農学)」の称号を授与します。

- ・微生物・植物・動物の生理・生体の機能について、分子および細胞レベルから個体や生態系に至るまで、階層的な見方ができる。
- ・分子から細胞、細胞から生体機能や生態に関する研究領域における知的能力や研究手法を習得することができる。
- ・分子や細胞、そしてそれらが織り成す生物の機能や生態を解き明かす研究領域において、実践的に応用・活用できる。
- ・細胞や生体の機能を分子的な面から総合的に考える分野において、周辺領域の情報を収集して自分の考えをまとめ、それに基づく実証を行い、結論を文章や口頭で論理的に発表し、意見交換できる。

別添資料 25 シラバスの活用例 (出典：広島大学学生情報システムもみじ)

年度	2013年度	開講部局	生物生産学部		
講義コード	L2002004	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	水族生理学				
授業科目名 (フリガナ)	スイゾクセイリガク				
英文授業科目名	Aquatic Animal Physiology				
担当教員名	楠松 一真, 吉田 将之				
担当教員名 (フリガナ)	ウエマツ カズマサ, ヨシダ マサユキ				
研究室の場所	A318	内線番号	7943 (学外からは前に424を付ける)		
E-mailアドレス	uematuk@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	2年次生 後期		
曜日時限	火 3時限, 4時限	講義室	生C316		
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	講義中心、板書多用、プリント配布		
単位	2	週時間	2	使用言語	
対象学生	必修, 海洋生物生産学コース				
学修の段階					
学問分野(分野)	99: 指定なし				
学問分野(分科)	99: 指定なし				
授業のキーワード	真骨魚類、軟骨魚類、恒常性、呼吸、循環系、浮力調節、排泄、浸透圧調節、摂餌、消化吸收、遊泳、ニューロンの生物学、中枢神経系、感覚、ホルモン、成熟、生殖				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ	水族生理学は水産科学の中の基礎的分野の一つである。基本的には、魚の体の作りはどうなっていて、どのような仕組みにより制御されているのかを知る学問である。その知識を駆使することにより、魚介類をいかに増やすか、いかに上手に飼うか、どうすれば効率的に漁獲できるか、病気の原因は何か、なぜに様々な行動を見せるのか、なぜそんなところに棲めるのか、などを究明することにより水産科学のあらゆる分野に貢献することができる。				
到達度評価の評価項目	水産生物科学プログラム (知識・理解) ・水圏におけるさまざまな生物の生理、生態、生化学的特性を総体的に理解する。				
授業の目標・概要等	生理学は生物の仕組み(形態)とその働き(機能)を解析する生物学の一分野である。他の水産科学の分野、増殖学・資源学・病理学などを学ぶ上でも生理学の知識は欠かせない。本講義では真骨魚を中心とする魚類の基本的な生理機能を理解させる。				
授業計画	<p>第1回 イントロ・水族生理学とは</p> <p>第2回 魚類の呼吸系の形態と特徴</p> <p>第3回 魚類の循環系の形態と特徴</p> <p>第4回 浮力調節の生理機構</p> <p>第5回 腎臓の構造と機能</p> <p>第6回 浸透圧調節機構</p> <p>第7回 摂餌と消化の生理</p> <p>第8回 神経系基礎</p> <p>第9回 魚類神経系の形態と機能</p> <p>第10回 魚類の感覚(化学的感覚・味覚と嗅覚)</p> <p>第11回 魚類の感覚(視覚)</p> <p>第12回 魚類の遊泳</p> <p>第13回 脳と下垂体のホルモン</p> <p>第14回 末梢内分泌器官のホルモン</p> <p>第15回 魚類の生殖生理(成熟と産卵)</p> <p>毎回、授業の最後に当日の講義内容を問う小テストを実施する(10分程度)。</p> <p>魚類を中心とした重要水産動物の生理機能のうち、浸透圧調節系・呼吸循環系・内分泌系・神経系・泌尿生殖系について比較生理学的に論ずる。一部の生理機能については、環境生理学の見地からも言及する。</p>				
教科書・参考書等	講義形式(講義中心、板書多用、教科書・プリント・スライド・パソコン・液晶プロジェクター)				
教科書・参考書等	教科書：「魚類生理学の基礎」 参考書：「魚類生理学」「魚類のニューロサイエンス」				
授業で使用する メディア・機器等	テキスト、配付資料、音声教材、映像(ビデオ/PC/その他画像資料)				

予習・復習への アドバイス	教科書「魚類生理学の基礎」の授業計画にある各回に該当する章をあらかじめ読んでおくこと。
履修上の注意 受講条件等	動物生理学を受講していることが望ましい。他学部生の受講可。
成績評価の基準等	小テストの成績と受講態度をもって総合的に評価する（おおよそ8：2）。
メッセージ	講義開始後10分以降の入室は認めない。
その他	
<p>学期末に授業評価アンケートを実施します。回答に協力してください。                  回答に対しては教員からコメントを入力し、改善につなげていきます。                  なお、受講者が著しく少ない場合などに、アンケートを実施しないときがあります。</p>	

### Ⅲ. 評価の方法

HiPROSPECTS<sup>ハイプロスペクツ</sup>(R)の大きな特徴の一つは、これまでにない新しい学習成果の評価方法を導入したことです。

広島大学は、HiPROSPECTS<sup>ハイプロスペクツ</sup>(R)を導入し、プログラム毎に到達目標を定めることにより、各主専攻プログラムのみなさん一人ひとりに対し、従来から行われている授業科目の成績評価に加えて、プログラム毎に定められた到達目標に対する到達度の評価を行います。

これにより、みなさんは自分自身が身につけた力をよりわかりやすく知ることができ、今後の学習方法についてのヒントを得ることができるのです。

#### 1. 授業科目の成績評価

みなさんは、履修基準に従って授業科目を履修し、試験を受けて、必要な単位を修得していきませんが、みなさんの学習成果の評価は、まずその授業科目毎に行われます。それが授業科目の成績評価です。

成績評価は、秀 (S)、優 (A)、良 (B)、可 (C)、不可 (D) の5段階評価とし、秀、優、良、可を合格とします。成績評価の結果は、学期毎に通知します。

なお、各授業科目で行われる成績評価の基準等は、シラバスに明示されています。

#### 2. 本学共通の平均評価点 (GPA : Grade Point Average)

授業科目の成績評価をまとめた指標として、全学的に算出方法を統一した平均評価点 (GPA : Grade Point Average) を通知します。算出公式は次のとおりです。

この GPA は、履修指導に活用する他、奨学金、授業料免除、成績優秀者及び学生表彰等の選定基準としても用いられます。

#### 【本学共通の平均評価点 (GPA : Grade Point Average) 算出公式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{総登録単位数} \times 4} \times 100$$

(注) 分母が「総登録単位数」に基づくものであることに注意してください。むやみに多くの授業を履修登録すると、履修しきれなくなり GPA が下がってしまうことがあります。



別添資料 27 学士課程における成績評価指針について(出典：広島大学いろは)

○学士課程教育における成績評価指針について

平成 25 年 1 月 28 日  
理事(教育担当) 決裁

1 趣旨

この指針は、広島大学の学士課程教育における成績評価に関し一定の基準を定めることにより、大学教育としての質を保証し、維持・改善を図ることを目的とする。

2 成績評価の原則

成績評価は、絶対評価とする。

3 成績評価の基準等の周知

授業担当教員は、成績評価の厳格化の観点から、授業目標や成績評価の基準等、成績評価に関する情報をシラバスに明示するものとする。

4 成績評価の方法

(1) 成績評価は、定期試験、小テスト、レポート、授業中の活動、学習記録等の多様な要素の中から、授業の方法や目的に応じた評価方法を選択し、できる限り複数の要素を用いて行うものとする。この場合において、授業への出席回数については、学生が全授業に出席することは前提であるため、期末試験等の受験要件としてのみ用いることとし、成績評価の要素としない。

(2) 授業担当教員は、公平で客観的な成績評価を行うとともに、極端に偏った成績分布とならないよう、試験の難易度や成績評価に占めるその比重等を適切に設定するものとする。

(3) 次に掲げる授業科目のうち、相応の理由があると教養教育本部又はプログラム担当教員会が認める授業科目については、成績分布に偏りが生じることを妨げない。

イ 少人数授業

ロ 習熟度に応じて編成する授業

ハ 演習、実験、実習又は実技による授業

ニ 高度な技能を養成する授業

ホ その他成績分布の偏りに相応の理由があると教養教育本部又はプログラム担当教員会が認める授業

5 成績評価基準等の調整

授業担当教員は、同一の授業科目名で複数開講される授業科目を担当するとき、又はオムニバス形式による授業科目を担当するときは、当該授業担当教員間で成績評価の方法や基準等に差が生じないよう、相互に調整するものとする。

6 成績評価の説明責任等

(1) 授業担当教員は、適切な成績評価を行うとともに、学生、保護者、社会等に対して説明できるよう、成績評価に関する情報の開示に備えるものとする。

(2) 教養教育本部又はプログラム担当教員会は、成績評価の厳格化の観点から、個々の授業科目の成績分布データを授業担当教員と共有し、試験の難易度等を点検できる体制を整備するものとする。

(3) 教養教育本部又はプログラム担当教員会は、成績分布に著しい偏りが存在するとき、又は成績評価の方法や基準等に一貫性が欠如している可能性が高いと判断するときは、授業担当教員に対して説明を求めるとともに、必要に応じて改善を求めることができるものとする。

7 異議申立てへの対応

教養教育本部又はプログラム担当教員会は、学生等からの成績評価に関する異議申立てについて、授業担当教員と協同して対応するものとする。

8 適用

この指針は、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

別添資料 28 卒業認定基準(教養教育) (出典：生物生産学部学生便覧)

別表第1(第6条第2項, 第17条関係)

各プログラム共通履修表(教養教育科目)

区分	科目区分	要修得 単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修 Semester(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1t/	2t/	3t/	4t/	5t/	6t/	7t/	8t/						
教養 コア 科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	◎													
	平和科目	2		2	選択必修	○	○												
	パッケージ別科目	6	選択したパッケージから	2	選択必修	○	○												
	外国語科目 (注3)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	◎												
				コミュニケーション基礎 II	1			◎											
		コミュニケーション I	2	コミュニケーション I A	1	必修	◎												
				コミュニケーション I B	1			◎											
		コミュニケーション II	2	コミュニケーション II A	1	必修			◎										
				コミュニケーション II B	1			◎											
		コミュニケーション III	2	コミュニケーション III A	1	必修					○	○							
				コミュニケーション III B, コミュニケーション III Cから1科目	1		選択必修						○	○					
		初修外国語 (1言語選択)	4	ベーシック外国語 I から 2科目	1	選択必修	◎												
				ベーシック外国語 II から 2科目	1			◎											
	情報科目	2	(注5)	2	選択必修	◎													
	領域科目	10	(注4)	1 又は 2	選択必修	○	○	○	○	○	○	○							
健康スポーツ科目	2	(注5)	1 又は 2	選択必修	○	○													
基盤科目	基礎微分積分学又は微分積分通論(注6)	12	基礎微分積分学又は微分積分通論(注6)	2	必修	◎													
			有機化学	2			◎												
			種生物学	2		◎													
			細胞科学	2			◎												
			一般化学又は初修化学(注7)	2		◎													
	物理学実験, 化学実験, 生物学実験から2科目	各1	選択必修	○	○														
計	48																		

別添資料 29 卒業認定基準(専門基礎科目) (出典：生物生産学部学生便覧)

別表第2(第6条第3項, 第17条関係)

○ 各プログラム共通履修表(専門基礎科目)

区分	科目区分	要修得 単位数	授業科目	単位数	履修年次																						
					1年次		2年次		3年次		4年次																
					前	後	前	後	前	後	前	後															
専門 教育 科目	専門基礎科目	24	生物生産学入門	2	○																						
			生化学入門	2		○																					
			食料資源論	2		○																					
			生物生産学のための物理学入門	2		○																					
			科学技術倫理学	2		○																					
			生物環境学	2			○																				
			分子生物学入門	2			○																				
			基礎生物学実験 I	1			○																				
			基礎生物学実験 II	1			○																				
			基礎化学実験	1			○																				
			基礎物理学実験	1			○																				
			外書講読	2									○														
			必修科目 計 20 単位																								
						微生物学入門	2	○																			
						フィールド科学演習	2		○																		
						動物生態学	2			○																	
						動物生理学	2			○																	
						遺伝学	2			○																	
						動物生産サイエンス入門	2			○																	
						植物バイオサイエンス入門	2			○																	
						生物統計学	2			○																	
						生物物理化学	2			○																	
						公衆衛生学	2																			○	
			選択必修科目 計 20 単位のうち 4 単位選択必修 (4 単位を超える履修単位は各プログラムの選択科目とする。)																								



31. 教育関係外部資金の獲得状況（出典：研究科作成）

教育改革支援事業等名称	取組名(プロジェクト名称)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
		第2期						第3期		
理数学生育成支援事業	理数学生育成プログラム(広島大学型アクティブラーニングによる研究者養成特別コースプログラム)		←				→	---	→	
大学の世界展開力強化事業【AIMSプログラム】	アジアの共同経済発展と信頼関係の確立による平和構築に貢献する中核人財				←				→	
地(知)の拠点整備事業	平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点				←				→	
教育関係共同利用拠点	食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点		←				→			
	食料の生産環境と食の安全に配慮した循環型酪農教育拠点(再認定)							←		→
	瀬戸内海における里海学フィールド教育拠点(広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター竹原ステーション(水産実験所))				←				→	
	瀬戸内海における洋上里海教育のための共同利用拠点(教育拠点(広島大学生物生産学部附属練習船豊潮丸))				←				→	

\* 網掛け:事業実施期間、矢印(実線):文部科学省等経費支援期間、矢印(点線):学長裁量経費支援期間

別添資料 32 学部教育に関するアンケート（出典：教育改革推進委員会報告書）

- 質問 1：生物生産学部の教育目標とその特徴について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
生物生産学部の教育目標に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 2：教育の実施体制について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
教育の実施体制に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 3：生物生産学部の教育内容，教育方法の改善体制について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
生物生産学部の教育内容，教育方法の改善体制に関するご希望をお聞かせください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
教育内容，教育方法の改善体制に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 4：生物生産学部の教育課程の編成について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
こういう教育をして欲しいなどのご要望等がありましたら、お聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 5：学生や関係者からの要請への対応について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
学生や関係者からの要請への対応に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 6：授業形態の組合せと学習指導法の工夫について思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
授業形態の組合せと学習指導法の工夫に関する希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 7：主体的な学習を促す取組について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
主体的な学習を促す取組に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 8：学生が身に付けた学力や資質・能力について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
学生が身に付けるべき学力や資質・能力に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_
- 質問 9：学生の進路・就職の状況について、思い当たる箇所に○印を記載してください。  
満足（ ）， やや満足（ ）， やや不満（ ）， 不満（ ）。  
ご意見を記載してください。 \_\_\_\_\_  
学生の進路・就職の状況に関するご希望をお聞かせください。 \_\_\_\_\_

別添資料 33 学部卒業生へのアンケート (出典：教育改革推進委員会報告書)

卒業生アンケート

- (1) あなたの性別、卒業年度、在籍したコース名についてお答えください。  
性別 ( 男 : 女 ) 卒業年度 (平成 年度) コース名 ( )
- (2) あなたの職業についてお答えください。  
a) 会社員(研究・技術職) b) 会社員(事務・営業職) c) 自営業 d) 公務員(研究・技術職)  
e) 公務員(事務・営業職) f) 教員 g) 団体・法人職員(研究・技術職) h) 団体・法人職員(事務・営業職)  
i) その他 ( )
- (3) 最終学歴についてお答えください。  
a) 生物生産学部卒業 b) 生物圏科学研究科博士課程前期修了 c) 生物圏科学研究科博士課程後期修了  
d) 他大学・他研究科博士課程前期修了 e) 他大学・他研究科博士課程後期修了 f) その他 ( )
- (4) あなたにとって、生物生産学部の教育カリキュラムは満足できましたか。  
1) 教養教育科目 2) 専門基礎科目(講義科目) 3) 専門基礎科目(専門基礎実験)  
4) コース専門科目(講義科目) 5) コース専門科目(学生実験) 6) 卒業論文  
それぞれについて  
a) 大変満足 b) ほぼ満足 c) 多少不満 d) 大変不満  
不満な点やコメントがあればお書きください。
- (5) 現在のあなたにとって、生物生産学部で受けた教育は役立っていますか。  
1) 教養教育科目 2) 専門基礎科目(講義科目) 3) 専門基礎科目(専門基礎実験)  
4) コース専門科目(講義科目) 5) コース専門科目(学生実験) 6) 卒業論文  
それぞれについて  
a) 大変役立っている b) 多少役立っている c) あまり役立っていない d) 全然役立っていない  
改善すべき点やコメントがあればお書きください。
- (6) 大学生活で有意義だったことは何ですか。お答えください(複数回答可)。  
a) 教養の講義 b) 専門の講義 c) 学生実験・実習 d) 卒業論文・卒業研究 e) 研究室生活  
f) 友人 g) クラブ・課外活動 h) アルバイト i) 旅行 j) 就職活動 k) インターシップ  
l) 外書購読 m) 海外実習 n) ボランティア o) その他 ( )
- (7) 生物生産学部の卒業生は、あなたの周囲でどのように評価されていますか。  
a) 大変評価されている b) 多少評価されている c) あまり評価されていない d) 全然評価されていない  
その理由やコメントがあればお書きください。
- (8) 生物生産学部の卒業生に、特記すべき特徴があればお書きください。
- (9) 生物生産学部の教育で、優れた点や評価すべき点があればお書きください。
- (10) 生物生産学部の教育で、悪い点や、今後改善すべき点があればお書きください。
- (11) 現在の生物生産学部は、あなたの周囲でどのように評価されていますか。  
**1 教育活動**  
a) 大変評価されている b) 多少評価されている c) あまり評価されていない d) 全然評価されていない  
その理由やコメントがあればお書きください。  
**2 研究活動**  
a) 大変評価されている b) 多少評価されている c) あまり評価されていない d) 全然評価されていない  
その理由やコメントがあればお書きください。  
**3 地域貢献**  
a) 大変評価されている b) 多少評価されている c) あまり評価されていない d) 全然評価されていない  
その理由やコメントがあればお書きください。  
**4 国際貢献**  
a) 大変評価されている b) 多少評価されている c) あまり評価されていない d) 全然評価されていない  
その理由やコメントがあればお書きください。
- (12) あなたの子弟や親戚に、生物生産学部への入学を勧めますか。  
a) 強く勧めたい b) 多少勧めたい c) あまり勧めたくない d) 絶対に勧めたくない  
その理由やコメントがあれば、お書きください。
- (13) 生物生産学部が発展するために、今後検討すべき事項や取り組むべき施策等がありますか。  
有益な御助言があればお書きください。
- (14) 生物生産学部の卒業生、そして先輩として、生物生産学部の教員や後輩の学生に望むことがあればお書きください。
- (15) その他、生物生産学部に、ご意見・ご注文等がございましたらご記入ください。

別添資料 34 学部卒業生の進路（出典：研究科作成）

**平成22年度**

学内進学 54  
 他大学進学 6  
 コカ・コーラ セントラルジャパン株式会社  
 株式会社 コスモス薬品  
 生活協同組合コープおおいた  
 有限会社 共楽堂  
 財団法人 赤堀病院  
 伊藤ハム株式会社  
 明治飼糧株式会社  
 株式会社 広島銀行  
 広島市  
 東広島市  
 オタフクソース株式会社  
 明治製菓株式会社  
 株式会社 丸久  
 広島市  
 尾道市  
 福岡県  
 一般社団法人 徳島新聞社  
 広島県  
 広島県  
 株式会社 長谷川会計事務所  
 警視庁  
 丸三産業株式会社  
 広島県  
 富田薬品株式会社  
 香川県  
 株式会社 三井住友銀行  
 株式会社 内海機械  
 医療法人社団 井野口病院  
 大分市  
 愛媛県  
 全国農業協同組合連合会  
 島根県警察  
 長崎県  
 ユタカフーズ株式会社  
 広島市  
 敷島製パン株式会社  
 山崎製パン株式会社  
 日清オイリオグループ株式会社  
 中国労働金庫  
 長崎県  
 ベルグアース株式会社  
 株式会社 鷗州コーポレーション

**平成23年度**

学内進学 52  
 他大学進学 3  
 エノテカ株式会社  
 マルイ農協グループ  
 ユニテックフーズ株式会社  
 株式会社 コスモス薬品  
 田原市  
 水島ガス株式会社  
 株式会社 ジャパンイマジネーション  
 岡山フードサービス株式会社  
 有限会社 幸鷹牧場  
 株式会社 コスモス薬品  
 小林製薬ブラックス株式会社  
 株式会社 久留米原種育成会  
 株式会社 日本チャンキー  
 株式会社 アマネセル  
 全国農業協同組合連合会 長野県本部  
 日本臓器製薬株式会社  
 広島県  
 国東市  
 雪印メグミルク株式会社  
 山口県  
 熊本市  
 日本食研ホールディングス株式会社  
 森永乳業株式会社  
 神戸市  
 中国電力株式会社  
 広島県  
 株式会社 伊予銀行  
 塩野義製薬株式会社  
 古賀市  
 福山市  
 株式会社 ビーシーイングス 田中学習会  
 バイエル薬品株式会社  
 岡山県  
 アース環境サービス株式会社  
 ディップ株式会社  
 株式会社 ラプラス・システム  
 広島県立総合技術研究所食品工業技術センター  
 株式会社 日本チャンキー  
 フジパングループ本社株式会社  
 学校法人岩永学園  
 株式会社 ニトリ  
 熊本県  
 池田糖化工業株式会社  
 株式会社 鷗州コーポレーション  
 長崎県  
 株式会社 北陸銀行  
 山崎製パン株式会社  
 広島市  
 ネットワンシステムズ株式会社  
 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社  
 長崎県  
 協和発酵ケミカル株式会社  
 医療法人 ハート 広島HARTクリニック  
 田村秀子婦人科医院  
 公益社団法人 大分県薬剤師会  
 ヤーマン株式会社  
 JA全農ミートフーズ株式会社  
 日本通運株式会社  
 香川県農業協同組合  
 福井ウィメンズクリニック



**平成24年度**

学内進学 54  
 他大学進学 4  
 株式会社 ピエトロ  
 株式会社 クリニカルサポート  
 日本郵便株式会社  
 板野郡農業協同組合  
 レンドリース・ジャパン  
 三幸製菓株式会社  
 かめや釣具株式会社  
 ソフトバンク株式会社  
 周南市  
 学習塾  
 株式会社 ヤマダヤ  
 広島市  
 株式会社 ABC Cooking Studio  
 農事組合法人 伊賀の里モクモク手づくりファーム  
 株式会社 MTG  
 株式会社 KG情報  
 山崎製パン株式会社  
 広島市消防局  
 全国共済農業協同組合連合会 大分県本部  
 鹿児島市  
 福岡県  
 株式会社 再春館製薬所  
 前田海産株式会社  
 中国労働金庫  
 菊陽町  
 兵庫県教育委員会  
 医療法人 浅田レディースクリニック  
 株式会社 広島教育研究社  
 三井住友信託銀行株式会社  
 東広島市  
 JA全農ミートフーズ株式会社  
 株式会社 三井住友銀行  
 ノバルティスファーマ株式会社  
 呉市  
 株式会社 ピックルスコーポレーション  
 株式会社 スタジオアリス  
 ANAテレマート株式会社  
 島根県  
 広島県  
 株式会社 きちり  
 株式会社 ザグザグ  
 茨木市  
 全国農業協同組合連合会 広島県本部  
 愛媛県教育委員会  
 株式会社 鹿児島銀行  
 ソフトバンクモバイル株式会社  
 シモハナ物流株式会社

**平成25年度**

学内進学 59  
 他大学進学 2  
 公益社団法人 山口県畜産振興協会  
 株式会社 ナチュラルガーデン  
 株式会社 福永産業  
 株式会社 大冷  
 株式会社 日明舎  
 医療法人 ハート 広島HARTクリニック  
 日本食研ホールディングス株式会社  
 宗像市  
 キヤノンマーケティングジャパン株式会社  
 イオンリテール株式会社  
 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社  
 株式会社 ピックルスコーポレーション  
 生活協同組合ひろしま  
 株式会社 中国銀行  
 カゴメ株式会社  
 広島県  
 呉市  
 JA全農ミートフーズ株式会社  
 日本たばこ産業株式会社  
 アース環境サービス株式会社  
 株式会社 クラハシ  
 静岡県  
 オハヨー乳業株式会社  
 株式会社 アンデルセン  
 株式会社 日本チャンキー  
 国税庁広島国税局  
 株式会社 神戸屋  
 山口大学  
 高萩市  
 JA全農ミートフーズ株式会社

別添資料 35 実施した関係企業アンケートの内容 (出典：教育改革推進委員会報告書)

以下の各設問に対し、あてはまる選択肢を○印で囲んでください。また、空欄には、コメント等をご自由にご記入ください。

- (1) 貴社では社員にどのような能力を最も求められますか(複数回答可)。  
 a) 独創性, b) 実践力, c) 表現力, d) 柔軟性, e) 教養, f) 専門的知識, g) 社会常識, h) 忍耐力, i) リーダーシップ, j) その他  
 コメント・ご意見:
- (2) 広島大学生物生産学部の卒業生は貴社ではどのように評価されていますか。  
 a) 大変評価されている, b) 多少評価されている, c) あまり評価されていない, d) 評価されていない  
 コメント・ご意見:
- (3) 広島大学生物生産学部の卒業生はどのような能力が高く評価されていますか(複数回答可)。  
 a) 独創性, b) 実践力, c) 表現力, d) 柔軟性, e) 教養, f) 専門的知識, g) 社会常識, h) 忍耐力, i) リーダーシップ, j) その他  
 コメント・ご意見:
- (4) 広島大学生物生産学部の卒業生はどのような点が不足していると思われませんか(複数回答可)。  
 a) 独創性, b) 実践力, c) 表現力, d) 柔軟性, e) 教養, f) 専門的知識, g) 社会常識, h) 忍耐力, i) リーダーシップ, j) その他  
 コメント・ご意見:
- (5) 広島大学生物生産学部の卒業生は、どのような点で特徴的だと思いますか(複数回答可)。  
 a) 勤勉, b) 明朗快活, c) 社交的, d) 知性的, e) 個性的, f) 倫理的, g) 寛大  
 h) 我慢強い, i) ペースメーカー的, j) その他  
 コメント・ご意見:
- (6) 広島大学生物生産学部は、関連する研究分野により生物圏環境学コース、水産生物科学コース、動物生産科学コース、食品科学コース、分子細胞機能学コースの5つのコースで構成されています。このことについて、  
 a) 十分知っている, b) 知っている, c) あまり知らない, d) 全く知らない
- (7) 上記の各々のコースが、教育単位として研究分野と関連する主専攻プログラムを開設し、到達目標型教育を実施しています。このことについて、  
 a) 十分知っている b) 知っている c) あまり知らない d) 全く知らない
- (8) 貴社ではどのコースの主専攻プログラムの卒業生であれば受け入れ可能と思われませんか。  
 a) 生物圏環境学コース b) 水産生物科学コース c) 動物生産科学コース d) 食品科学コース e) 分子細胞機能学コース  
 コメント・ご意見:
- (9) 各コースの主専攻プログラムの教育内容は、社会的なニーズにマッチしていると思われませんか。  
 <生物圏環境学プログラム>  
 a) マッチしている b) ほぼマッチしている c) あまりマッチしていない d) 全くマッチしていない  
 <水産生物科学プログラム>  
 a) マッチしている b) ほぼマッチしている c) あまりマッチしていない d) 全くマッチしていない  
 <動物生産科学プログラム>  
 a) マッチしている b) ほぼマッチしている c) あまりマッチしていない d) 全くマッチしていない  
 <食品科学プログラム>  
 a) マッチしている b) ほぼマッチしている c) あまりマッチしていない d) 全くマッチしていない  
 <分子細胞機能学プログラム>  
 a) マッチしている b) ほぼマッチしている c) あまりマッチしていない d) 全くマッチしていない  
 コメント・ご意見:
- (10) 広島大学生物生産学部の教育目標、教育の実施体制、教育内容・方法などについて、さらなるコメント・ご意見が頂ければ幸いに存じます。